

■学校評価アンケートには以下のようなねらいがあります。

- 1 子どもたち、保護者の皆様、地域の方々の願いや思いを聴き、よりよい学校づくりに役立てるため
- 2 アンケート結果を反映させることで教育活動・授業等を改善するため
- 3 学校で大切にしている事柄をアンケート項目にすることで、学校での取組をより一層知っていただくため

■塚戸小学校では「思い描く『未来』を実現しようと自ら行動しようとする子が育つ学校」を目指して、「感動」「共感」「感謝」のある学びを大切にしています。今年度はその実現のために3つの重点活動を推進しています。

- 1 感動・共感・感謝のある教育活動を実現する「関わり合い」を大切にした交流活動の推進 ～「せたがや探究的な学び」の推進～
- 2 感動・共感・感謝のある教育活動を実現する「インクルーシブ教育」の推進
- 3 感動・共感・感謝のある教育活動を実現する「キャリア教育」の推進

1 感動・共感・感謝のある教育活動を実現する「関わり合い」を大切にした交流活動の推進 ～「せたがや探究的な学び」の推進～

世田谷区では、変化の激しい社会に対応し、子どもたちが未来を自らデザインし実現できる人材を育成するために「キャリア・未来デザイン教育」を重点に教育施策を展開しています。その一環として「せたがや探究的な学び」を推進し、教師主導型から子ども主体の探究的な授業の転換を図っています。「せたがや探究的な学び」では、子どもたちが自ら課題を見つけ、主体的に学び、解決する力を育むことを目指しています。また、探究のプロセスと共感・協働を2本柱としています。

- (1) 探究のプロセス：子どもたちが好奇心や探究心を喚起し、「自ら課題を設定する」「解決に向けて取り組む」「学びの成果を振り返る」「次の探究活動へとつなげる」の4過程を重視します。
- (2) 共感・協働：他者との関りを広げ、多様な体験を積むことで、共感力や協働力を育みます。「非認知能力」の育成を重視し、学び支える能力として大切にします。

塚戸小学校の「せたがや探究的な学び」では、今度は授業や行事等の教育活動に「関わり合い」を大切にした交流活動を意図的・計画的・積極的に取り入れています。また、どの教育活動においても「振り返り」を大切にし、次の学習や教育活動につなげていくことを支援しています。(資料1)

2 感動・共感・感謝のある教育活動を実現する「インクルーシブ教育」の推進

世田谷区のインクルーシブ教育の基本理念は、「誰一人取り残さない教育」を実施していくことです。全ての子どもを対象に、共に学び、共に考え、共に支え合い、共に育つことが当たり前であることを理解し、自分と違う人たちが近くにいる環境の中で、様々な個性や背景をもっていることを前提として、相互理解と尊重が当たり前となるような子ども同士のつながりを築き、共に学び、共に育ち、共に成長する学校を目指しています。

塚戸小学校では、子どもたちが安心して学ぶ機会と場を大切にします。学校内外で専門性のある様々なスタッフが子どもたちの生活や学習を支援します。(資料2)

3 感動・共感・感謝のある教育活動を実現する「キャリア教育」の推進

キャリア教育というと、どうしても「進路指導」「将来の夢」と未来に向きがちです。しかし、キャリア教育の「キャリア」の語源は「轍(わだち)～(career)と言われています。轍とは、馬車が通った後にできる車輪の後のことです。つまり、歩んできた道をどうやって次の一歩につなげていくのかを重視しています。

現行の学習指導要領で重視している教育の内容の一つが「キャリア教育」です。子どもたちが、将来、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現できる力を育むための取組です。

塚戸小学校では、「自分の役割を果たす活動」を大切にしています。例えば学級の係活動もその一つです。高学年になると委員会活動や行事等の担当など、学校全体を支える経験を積み重ねていきます。その人らしさ(よさ)を伸ばし、自分事で社会(学級や学年・学校・地域)と関わり、社会の役に立つ喜びを知り、行動できる子を育てています。本校では、キャリア教育で育成する4つの力を次のように捉えています。①関わる力・役立つ力 ②自己調整力 ③やりぬいて解決する力 ④見通して判断する力 ①～④の力の育成に努めています。また、学校では、キャリア教育の充実のために「キャリア・パスポート」の活用を推進しています。「キャリア・パスポート」とは、小学校から高等学校を通じて、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐものです。自らの変容や成長をポートフォリオ(成果物の保尊)としてファイリングしていきます。小学校から中学校へ、中学校から高等学校へと継続して取り組み、学年や攻守の「つながり」を大切にしていきます。(資料3)

思い描く「未来」を実現しようと自ら行動する子が育つ学校

「未来」とはいわゆる将来のことだけを指すのではなく、1時間の授業、単元、一つの行事、1日、1週間、1ヶ月、学期、年度、卒業、社会人として活躍する自分の将来等、様々な場面を想定する。

わくわくしながら探究する学び

感動

自分のよさや可能性を感じる

自分をかけがえのない存在、価値ある存在として捉えることができれば「自分を大切にしたい」「自分にはできることがある」と感じることができます。

他者の思いや考えを認め合い尊重し合う学び

共感

違いを認め、思いやり、学び合う

違いを認め、受け入れる経験を重ねていくと、社会は多様性を認め合い、尊重し合って成り立っていることに気がきます。認め合う関係の中で自己を再認識し、自分の能力や個性に気が付き、それを伸ばすことも大切です。

社会（人）に役立つ喜びを実感する学び

感謝

社会の創り手として行動する

課題意識をもって仲間と共有しながら解決に向けて歩みだし、その体験や成果、支え合うことへの感謝を発信することが大切です。様々な課題に自分事として向き合い、挑戦を続け小さなことでも実現できた喜びを感じることで、自分の新たな可能性を感じ、次の行動につながります。

学習指導

わかる！ できる！ 楽しい！

～「せたがや探究的な学び」の実現～

■友達と関わる(協働して学ぶ)

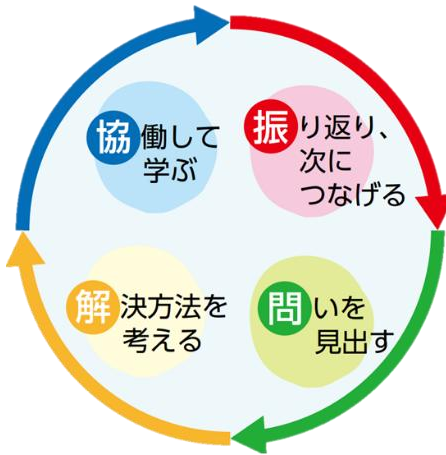


キャリア教育

自分らしい生き方の実現

～一人一人の子どもを大切に～

■振り返りを起点に学びが
学びがはじまる
「せたがや探究的な学び」の推進



特別活動

人間関係 合意形成 課題解決

～よりよい人間関係の形成～

教育 DX(トランスフォーメーション)の推進

「質の高い学び」と「接続可能な学校」の実現

～一人一人の個性に合わせた学び方の構築～

■異学年・異校種と関わる(協働して学ぶ)



■自分たちで創る(次につなげる)

■協働と共感による学びの推進

道徳教育・人権教育

自尊感情・他尊感情の醸成

～多様性の尊重～

インクルーシブ教育

全ての子が塚戸小で自己実現を！

～共生社会で生きるための素地づくり～

■子どもたちの学びの場の多様性 ～子どもたちが安心して学ぶ機会と場を大切にします～




すべての子どもたちの活躍の舞台 塚戸小学校！

自分のよさが認められる安心できる場所 塚戸小学校
 今もっている力を存分に発揮できる場所 塚戸小学校
 自尊感情と自己有用感が育つ 塚戸小学校
 意欲と主体的な行動力が育つ 塚戸小学校

“じぶん” っていういな “ともだち” っていういな
 ～互いを認め合う塚戸の子～

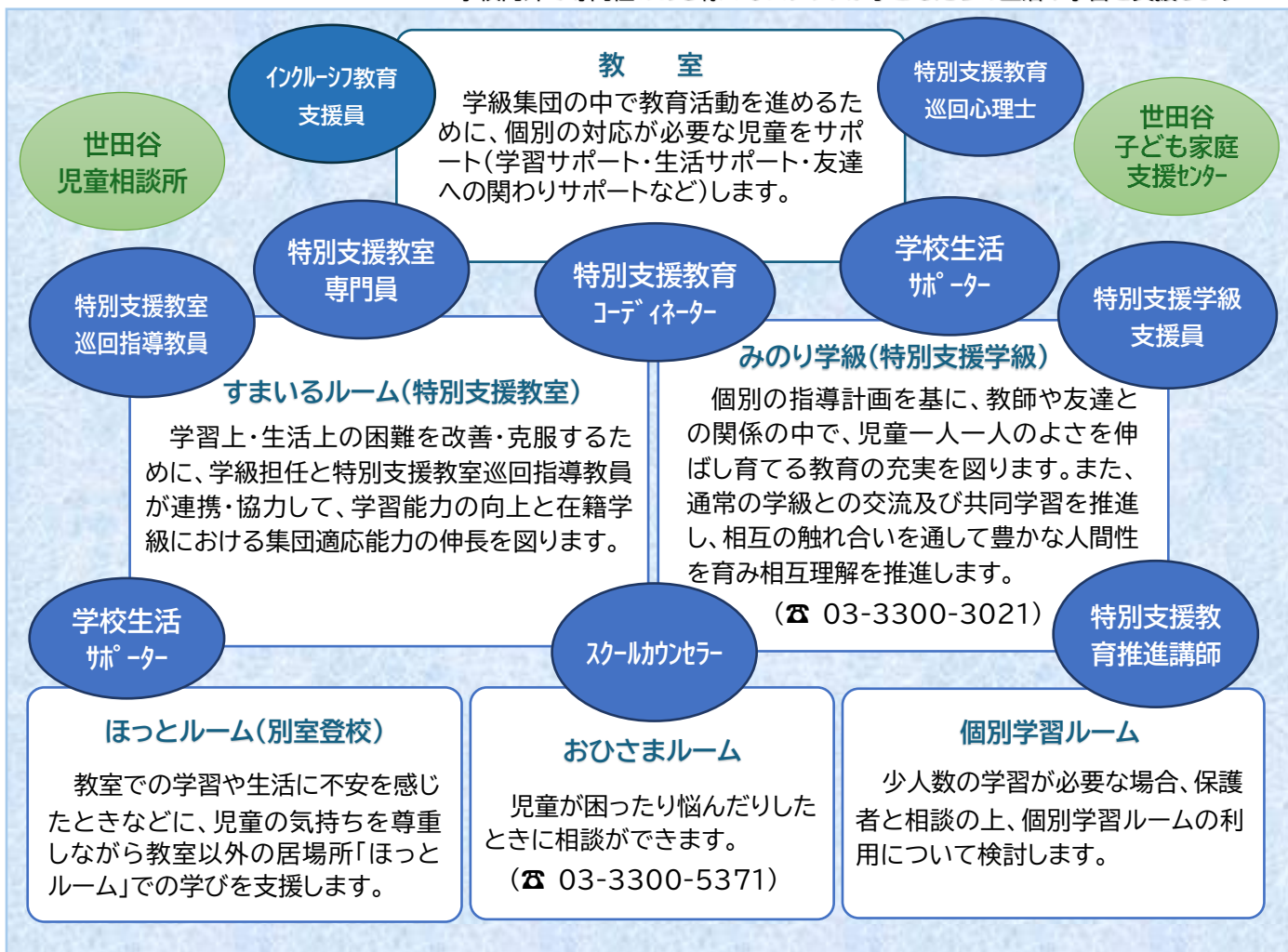







■一人一人に応じた支援体制の充実

～学校内外で専門性のある様々なスタッフが子どもたちの生活や学習を支援します～



資料3は、令和4年7月号の学校だよりに掲載したものの抜粋です。令和7年度もキャリア・パスポートの活用を大切にしています。

【6年生児童の目標】

6年生として、下級生が1日楽しく過ごせるように、下級生の気持ちを考えて、工夫して遊べるようにしたり、1年生も初めてで不安だと思うので、言葉の使い方や盛り上げることを意識したりする。

【6年生児童の事後の振り返り】

今までは5年生として、6年生のことは見てきたけれど6年生になって、今までの6年生のがんばりがよく分かりました。1年生がやりたい遊びと、3年生がやりたい遊びで意見が分かれてしまったので、できるだけみんなの意見が通せるように、どうしたらよいか考えるのが難しかったです。でも、下級生の気持ちを考えて行動できたので、6年生としての役割が果たせたと思いました。また、3年生もいろいろなアイデアを出してくれて、より盛り上がったし、私たちが忙しいとき手伝ってくれて、1年生や3年生がいてくれてこそその6年生だったなと思いました。つかどんタイムではあまり話さなくて盛り上がっていませんでしたが、今回の HALF DON 遠足で遊んだことで、1年生に積極的に話せるようになったし、仲も深められることができたので、より4月から成長できたなと感じました。

【子どもの成長への対話的なメッセージ】
～気付きをもたらすコミュニケーション～
*担任から・・・支えてくれるメンバーがいるから、すてきな時間がつくれるのですね。

【6年生児童の目標】

1・3年生との交流を深めること。仲を深めること。下学年のお手本となるように行動し、楽しい時間だったと思えるようにすること。

【6年生児童の事後の振り返り】

HALF DON 遠足の遊びを決めるとき、1・3年生に遊びを聞き、その遊びを行うためにいろいろと準備して、みんなが楽しめるような計画をすることができた。私は遊びの時間以外も楽しんでもらうために、1年生と手をつないでいろいろな話をした。たまたま保育園が一緒だったので、その話題についていろいろ話すことができた。学校についた後、感想を教えてと1年生に言うと「手をつないでいるとき（話しているとき）が楽しかった。」と言ってくれてとてもうれしい気持ちになった。遊びのときは、1・3・6年生みんなの意見を聞いて楽しい時間を過ごすことができた。そして、自分の目標の1・3年生と交流をして仲を深めることもできたと思う。この HALF DON 遠足を通して、 HALF DON 遠足は公園に着いてからではなく、移動しているときからみんなが楽しめるように考えて行動することや責任をもって行動することが大切だと学んだ。

【子どもの成長への対話的なメッセージ】
～気付きをもたらすコミュニケーション～
*担任から・・・多くの経験をし、かけがえない達成感を味わうことができましたね。努力して準備した結果です。よく頑張りました。

【5年生児童の「自分のめあて」】

たくさん人のいいところを見つけ、人に優しくでき感謝の気持ちを伝えられ、友達との人間関係をより深め、場に応じた行動ができ、自分のいいところを見つけ、そのいいところを生かして他人を幸せにできる自分。

【5年生児童の「移動教室での学び」】

キャンプファイヤー実行委員の友達が朝早く来たり、人前でしゃべるのが苦手でもしゃべっていたりしたので尊敬しました。ほくもしゃべるのが苦手なので「人前でしゃべれるようになるなんてすごいなあ」と思いました。次の機会があったらほくも代表的な存在になり、人前でしゃべれるようになり、自分を変えようと思いました。(略)

【今後に生かしたい力】

人の良いところ見つけられる力・・・人の言動から「良いところ」を見つけ、その人に「こんな良いところあったね！」などと伝えてあげ、その人を喜ばせてあげ、人を幸せにする。その上、人の「喜びの笑顔」を見られ、自分も「喜びの笑顔」を浮かべられる「すばらしい力」です。

【5年生児童の「自分のめあて」】

川場移動教室では先生や補助員、他にもいろいろな人たちにお手伝いしてもらうこともあるので、感謝の気持ちが伝わる姿勢でいく。

【5年生児童の「移動教室での学び」】

私が成長したと思ったことは、飯ごう炊きのかたづけのとき、自分の班は少し早く終わったので他の班の人たちのお手伝いをしました。そのときに感謝の気持ちを伝えてくれた子がいて、私は「やってよかったなあ。もっと友達役に立ちたい。」という思いが生まれたことです。

【今後に生かしたい力】

人の役に立つ・・・困っていることを一人で解決しようとしてもできる人はいるけど、二人や三人、たくさんいるほどたくさんの意見が集まる。だから一人にしておくのではなく、勇気を出して声をかけて助ける。

